

エコステーションだより

10

町で整備を進めているエコステーション。
検討委員会では、「最適なごみ処理方法」について審議が進められています。
今月号はこれら審議・検討の一環として実施された先進地事例調査の内容を紹介します。

愛知県新城市 1月17日

新城市クリーンセンター

市の人口：約53,000人
施設の年間ごみ処理量：13,389^ト(平成16年度実績)
施設の規模(1日の処理量)：60^ト(24時間連続運転)
処理方式：ストーカ炉

施設の概要

平成9年より建設に着手し平成12年2月より供用開始した。焼却炉の方式はストーカ式焼却炉で、約850℃～900℃の温度域で2時間程度かけてごみを焼却する。



場内で施設の説明を聞く

岐阜県瑞浪市 1月18日

瑞浪市クリーンセンター

市の人口：約42,000人
施設の年間ごみ処理量：10,883^ト(平成16年度実績)
施設の規模(1日の処理量)：50^ト(24時間連続運転)
処理方式：シャフト式ガス化熔融炉

施設の概要

旧処理施設が老朽化し、ごみの発生量に対し処理能力が追いつかなくなったため、施設の更新が計画された。建設地は旧施設の敷地内に余地があり、そこに建設することとなった。ごみは1,650℃～1,800℃で熔融され熔融固化物(スラグ)として一部回収される。回収されたスラグは地元の資材業者に売却しており、歩道ブロックの骨材として再利用されている。



施設内会議室での研修



施設内中央制御室で説明を聞く

愛知県田原市 1月18日

田原リサイクルセンター炭生館

市の人口：約65,500人
施設の年間ごみ処理量：16,000^ト(年間処理計画量)
施設の規模(1日の処理量)：60^ト(24時間連続運転)
処理方式：流動床式炭化炉

施設の概要

現在の田原市は、田原町、渥美町、赤羽根町の3町が合併してできた市である。合併前にはそれぞれの町でごみ処理施設を有していたが、いずれも老朽化により更新の必要に迫られ、3町での処理施設整備の検討が始まった。検討の前提として、ごみを燃料化すること、民間資金の活用(PFI方式)による公共施設の整備・運営を行うこととした。平成12年より検討を始め、PFI方式による実施方針の公表を経て事業者を公募し、平成14年に契約を締結、地元住民の同意を得たうえで建設に着手し、昨年4月より供用開始となった。この施設は投入されたごみを炉内で低温(550℃程度)で蒸し焼き状態にし、炭化物を回収する。中京工業地帯という地域条件もあり、回収された炭化物は周辺の製鉄工場で使われる石炭の代用燃料や、鑄造工程での保温材の代用品として利用されている。

岐阜県恵那市 2月20日

エコセンター恵那

市の人口：約57,500人
施設の年間ごみ処理量：8,791^ト(平成16年度実績)
施設の規模(1日の処理量)：RDF(固形燃料化)42^ト、炭化21^ト
処理方式：RDF・キルン式炭化炉

施設の概要

施設建設の際、ごみの処理方法として焼却施設は地元住民の同意が得られず、ごみを固形燃料化する施設を整備することとなった。しかし地域的に固形燃料としての需要があまり無く、固形燃料化したごみを更に炭化物とすることで資源物の需要を得ることができた。現在は安定した資源物の需要先を得るため、炭化物の使用用途を模索している。



施設内会議室での研修

長野県飯田市 2月20日

桐林クリーンセンター

人口(南信州広域合計)：約173,000人
施設の年間ごみ処理量：26,079^ト(平成16年度実績)
施設の規模(1日の処理量)：93^ト(24時間連続運転)
処理方式：流動床式ガス化熔融炉

施設の概要

南信地域の1市3町14村で構成されている南信州広域連合(ごみ処理事業は1市3町13村)が建設・運営を行っている。施設から出る余熱を飯田市で運営する勤労者福祉施設「サンヒルズいいだ」の温水プールと温浴施設に利用している。



余熱を利用した温水プール

第7回の浅麓地域ごみ処理総合検討委員会は4月5日(水)午後1時30分から開催する予定です。配布資料などの準備がありますので、傍聴を希望する方は開催予定日の前日までに事務局へ申し込んで下さい。また、議事の内容によっては一部傍聴をお断りする場合や、審議持ち越しの場合には資料を回収することがありますので、あらかじめご了承ください。

委員会の資料と議事録は、御代田町ホームページに掲載しています。

<http://www.town.miyota.nagano.jp/>

このコーナーに関する問い合わせは…生活環境課 環境施設係 電話(32)3111 内線14まで